

会議録

会議の名称	令和元年度第3回 西東京市緑化審議会
開催日時	令和2年1月10日(水) 14時00分から16時30分まで
開催場所	エコプラザ西東京 多目的スペース
出席者	委員:伊藤委員(会長)、飯田委員、村田委員、椎名委員、中尾委員、亀田委員、佐藤委員、中村(文)委員、池田委員、高橋委員、大矢委員、横山委員、加納委員、梅原委員、田巻委員 事務局:みどり環境部長 萱野(欠席)、みどり公園課長 渡邊、みどり公園係長 安達、みどり公園係主任 高島 支援委託業者:ランドブレイン(株)宮脇、村瀬、平田
議 題	1 令和元年度第2回緑化審議会会議録(案)について 2 保全活用の方針、方向性について 3 フォーラムの事業概要について 4 その他
会議資料の名称	資料1 令和元年度第2回緑化審議会会議録(案) 資料2 小委員会活動報告 資料3 審議会の今後の進め方 資料4 下保谷やしきりんレポート(案)イメージ 資料5 フォーラムの事業概要(案)(さくらフォーラム【仮】)
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p><u>開会</u> (会長) 第3回西東京市緑化審議会を開催いたします。 ～事務局より資料の説明～</p> <p><u>1 令和元年度第2回緑化審議会会議録(案)について</u> ～事務局より資料1の説明～ (会長) 委員の皆様には、議事録を事前にご確認いただいているかと思う。特に問題が無いようであれば、そのまま承認とする。</p> <p>(委員) 異議なし。</p> <p><u>2 保全活用の方針、方向性について</u> <u>①活動レポート創刊号のイメージについて</u> (会長) 活動レポート創刊号は、下保谷四丁目特別緑地地区の保全活用方針についてご理解い</p>	

ただけるようなものにしていきたい。その後、植生、建築、歴史文化、雨水浸透、人材育成といった各テーマについて活動レポートを発行していきたい。

創刊号の内容について説明する前に、委員より提供いただいた参考資料についてご説明いただき、議論の参考にしたい。

(委員)

「むさしのパークライフマガジン」は、武蔵野エリアにある都立公園の指定管理者である西武・武蔵野パートナーズにより発行されているフリーペーパーである。西武・武蔵野パートナーズでは、地域に開かれた公園づくりや、地域に公園があることの魅力についての発信を行っている。

(委員)

西原自然公園の「公園案内」は、表紙に「地域文化のフィールドミュージアム」という公園のコンセプトを掲げ、見開き中面で公園に咲く草花について写真を交えて紹介している。裏表紙では、手入れをおこなうことによって、豊かな生態系が維持されていることも紹介している。

(会長)

委員より、公園の使い方や魅力を紹介した冊子「むさしのパークライフマガジン」をご提供いただいた。「むさしのパークライフマガジン」では、「Park Life×木」など様々なテーマを取り上げ特集している。公園や緑地といった地域に開かれた公共空間は、地域の方々に学びや気づきを提供する場でもあると実感した。

また、「むさしのパークライフマガジン」、西原自然公園の「公園案内」ともに、冒頭にコンセプトを掲げている。これがとても大切だと考えている。小委員会で議論しながら活動レポートを検討しているが、保全活用していくことをコンセプトとして打ち出し、理解していただく必要がある。

活動レポートについて、コンセプトを打ち出す創刊号は非常に重要であるため、十分に検討してから出したいと思っている。表紙では屋敷林について紹介し、見開き中面では、屋敷林の保全と活用を一体的に進めていくことが活動のコンセプトであることも謳いたい。活動に関わる人の顔やメッセージが伝わるような紙面にしたい。また、可能であれば、おかしらさんに改めてインタビューを行い、インタビュー記事を掲載したい。裏面では、屋敷林が地域のなかでどのように位置づけられるかということを示せるとよい。今年度中にまとめたいと考えている。

～事務局より「資料2 小委員会活動報告」について説明～

(会長)

私から各テーマについて簡単にご説明し、それから各委員に補足していただければと思う。

植生については、平成23年度の樹木調書をもとに現状がどのようになっているのか、高橋家屋敷林保存会に協力いただきながら調査している。また、小委員会では、白子川崖線沿いに類似した植生が見られることや、様々な団体が活動していることを伺った。白子川流域というスケールで見ると、植生と人のネットワークという「植生」と「人材育成」の双方のテーマにまた

がるような話ができるのではないかと感じた。

(委員)

練馬区で屋敷林の保全に取り組んでいる市民や活動団体も、白子川流域を意識して活動している。開発が進み、白子川流域に点在する緑のつながりが見えにくくなってきているが、今も残っている緑を見てみると、共通する植生が見られたりする。

(委員)

屋敷林の視察を行った際にも、白子川の水が流れているのを確認できた。白子川流域で同じような緑の文化を共有していると言える。例えば、流域にカタクリを復活させる場合、流域内であれば融通することができる。

## ②植生調査について

(委員)

植生調査については、平成23年に行った調査に加え、樹冠の計測調査を行っている。計測方法は、一般の方でもすぐにできるようなもので、現在半分ほど調査を終えたところである。調査結果をどのように表現するかについても検討していく必要がある。

屋敷林が冬は北風を防ぎ、夏は暑さを和らげてくれるため、農家の前庭、竹林の前などはイベントを実施するのに適しているだろう。微気候の調査と合わせて、屋敷林の快適性について明らかにしたい。

(委員)

植生調査の結果も雨水浸透調査のなかで活用したい。屋敷林の樹冠の体積が、屋敷林内の雨水の浸透率や気温に影響を与えていると考えられる。環境要素から人体がどのくらいストレスを受けるのか算出する方法はあるので、将来的には屋敷林の快適性を数値化することもできるのではないかと。

(会長)

植生調査について、樹高も計測するということがあったが、その方法に興味がある。子どもたちに教えても面白いのではないかと思った。

(委員)

樹冠の計測では、4方向の枝張りなども計測しているのか。

(委員)

東西南北の4方向の枝張りを計測している。樹木同士が影響し合い、まっすぐに生育しない場合もある。そのような状況を的確に計測する必要がある。

(会長)

樹高の調査のように屋敷林のなかでできる活動もあれば、白子川流域の植生のように屋敷林の外に出て行う活動もある。例えば、白子川流域の植生を調べ、かつての植生を復活させ

るといった取組みは、屋敷林の保全にもなり、市民の参加する活用にもなるだろう。

### ③建物調査について

(会長)

建物調査についても、屋敷林の中での活動と屋敷林の外の活動を考えている。屋敷林の中については、昨年度末に実測結果などをまとめた「活用ヴィジョン」を活用したいと考えている。母屋自体はそれほど歴史のあるものではないが、間取りと庭や屋敷林の位置関係などは、武蔵野の民家として捉えることができる。武蔵野の民家を語る際には、委員にも知恵を貸していただきたいと考えている。

### ④歴史的・文化的調査について

(委員)

天神社を中心に下保谷地域を知るための調査を行い、そのなかで屋敷林の在り方についても考えていきたい。先ほどの白子川の話が出たが、下保谷の歴史を語るうえでも白子川は欠かせないものである。白子川を上ってきた人々によって下保谷は開かれたためである。また、武蔵野の民家の前庭で農作物を加工して生活していたと考えられる。そのような地域の歴史や文化を明らかにしていきたいと考えている。

そのほか、高橋家の蔵から見つかった具足の展示や藍染ワークショップ、白子川流域で活動している方を講師にお呼びした講演会などを実施している。屋内での講演会や庭でのワークショップが今後の活用方法の参考になればと思う。

「保谷のアイと白子川」のイベントではアンケートもを行い、その結果、市内外から来場いただいたことが分かり、また「敷地内を見たいと思っていた」という感想もあった。

(会長)

「下保谷四丁目特別緑地保全地区」が地域にとって価値のあるものだと知ってもらうのと同時に、どのような使い方をしたいかといったニーズの把握もしていかなければならないと考えている。今後、アンケートの結果も蓄積していきたい。

いろいろな切り口で屋敷林の魅力を発信すること、屋敷林そのものの話から流域や地域のなかでの屋敷林の話まで、さまざまなスケールで話をするのが大切だと考えている。

何か質問等あれば、ご発言いただきたい。

(委員)

歴史文化について、農や食に関してはどのような切り口を考えているか。

(委員)

今年のイベントでは「保谷のアイと白子川」としたが、過去には、小麦やたくあんといった農や食に関するテーマを取り上げてきた。

(委員)

かつての農地と現在の都市農地にどのようなつながりがあるのか、あるいはないのかが知りたい。屋敷林が現代の暮らしの中でどのようにつながってくるかがわかると面白い。

(会長)

委員に、地域の歴史文化と農業との関わりや、活用に対する考えをお聞きたい。

(委員)

旧田無市においては、江戸時代宿場町という地域性から多くの商人が集まり、商人地主として多くの農地を所有していた。旧田無市においても、地元代々の大地主が存在したが、その数はあまり多くなかった。戦後農地改革により農地を取得した小作農家も、戦後高度経済成長により多くの農地が住宅供給用地として売買されるようになった。農地が減少し住宅が建設されると、屋敷林などのケヤキの木は落ち葉の苦情などにより保存していくのが困難となり、現在においては旧田無に高橋家のような屋敷林を持つ農家はほとんどない。

相続が発生すれば相続税の支払いのために多くの農地や宅地の一部を売却せざるを得ない現状を考えると、それを防ぐには行政が買い取ることで保存、有効活用していく方法しかないと思うが、財政上今後は不可能と考える。このような観点から、高橋家の保存、有効活用は後世に残す伝統的、文化的財産として大変重要である。

### ⑤雨水浸透調査について

(委員)

雨水流出に関する調査では、屋敷林内に機器を設置して雨水の流出量を計り、屋敷林が雨水を保持する力を計った。屋敷林では、非常に高い割合で雨水を遮断、浸透させていることが分かった。

微気候の調査では、屋敷林内外5カ所に温湿度計を設置し、気温の推移を記録した。猛暑日の平均最高気温差(近隣駐車場と屋敷林内との差)は、一般的な公園と比較して高い暑熱緩和効果を示した。屋敷林は樹冠体積が大きく蒸発散量が多いためと考えられる。

学生とともに西東京市の農家の方へアンケートを行い、屋敷林を持つ農家の屋敷林についての価値認識を調査した。暑熱緩和の効果について評価は非常に高い一方で、洪水緩和の効果について評価は著しく低かった。洪水緩和の効果は特に下流域に影響するため、効果を実感しにくいのではないかと考えられる。

### ⑥人材育成について

(委員)

公園は地域に開かれたイメージがあるのに対し、屋敷林はそもそも入っていいものなのかも分かりづらい。地域住民が屋敷林を自分と関係のある場所だと思えるようにすることが大切である。媒体をつくるうえで、まずは屋敷林を知ってもらい地域に開かれた場にしていくことを意識する必要がある。「保全活用」という言葉も市民には分かりづらいので、何か分かりやすいフレーズがあるとよいのではないかと。

また、長期的な視点に立って人材育成の仕組みづくりを進めていく必要がある。フォーラムでワークショップを行う予定だが、そのような場の活用も検討していきたい。

## 3 フォーラムの事業概要について

～事務局より資料5の説明～

(会長)

雨天の場合でも、蔵にパネルを展示したり、傘をさして歩きながら解説したり、屋敷林で実施するということを活かしていきたい。ここで企画の内容を決めるのは難しいので、小委員会を実施して決めることとしたい。

(委員)

フォーラムの実施までに、活動レポートを発行するという考えはあるか。

(会長)

フォーラムの際に活動レポートを活用する予定であるため、それまでに発行する。

(事務局)

活動レポートやフォーラムについては、小委員会で検討していくが、最終的には会長に一任というかたちでよろしいか。

(委員)

異議なし。

#### 4 その他

(事務局)

今年度の緑化審議会は今回が最後となる。来年度は、全4回の審議会を検討している。第3回以降は、保全活用計画(案)の検討に入っていきたい。

#### 閉会

(会長)

以上で、第3回西東京市緑化審議会を閉会する。

以上